

「核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」 8/25

人間の営みを一瞬で奪い去る核兵器の存在を絶対に許してはならない!

～県内各地から加盟組合員約300名が出席～

～西日本豪雨災害支援カンパの呼びかけに、38,832円が寄せられた～



主催者挨拶をする
連合福島 今野泰会長

連合福島主催による「2018年核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」は、8月25日（土）福島市・福島県教育会館大ホールにて開催され、県内各地から加盟組合員約300名が出席した。

集会の冒頭では、本年6月末に発生した西日本豪雨災害の被災者に対して黙とうを捧げ哀悼の意を表した。その後、主催者を代表して連合福島の今野泰会長から「核は非人道的な絶対悪であること、身勝手な核保有国の主張に惑わされず、私たちは歴史と記憶を受け継ぎ行動し、後世に継承しなければならない。人は違う時代や場所に生きる人々の経験や気持ちを将来に生かせる唯一の生き物である、核なき世界は人類全体の目標であることを参加者全員で確認する集会としたい」と挨拶を述べた。

引き続き広島県原爆被害者団体協議会（広島県被団協）の被爆を語り継ぐ会から畠山裕子氏をお招きし、ご自身の壮絶な体験をもとに「私の被爆体験」と題して講演を頂いた。講演の中で「昨年、国連で採択された核兵器禁止条約では、前文に「被爆者の受け入れがたい苦痛と被害を心に留める」と刻まれたことは、被爆者が世界に認められ非常に嬉しく感じたが、日本政府は条約に不参加の姿勢をとり批准もしていない、私は怒りに震えた。核兵器は絶対にあっていけないもの、人間を人間でなくす恐ろしい兵器であり、核兵器廃絶のため皆さんも一緒に頑張りましょう」と述べた。



進行する連合福島
阿部薫 副事務局長



講演を頂いた広島県被
団協 畠山裕子さん

最後に、戦争の愚かさや核兵器の恐ろしさは決して忘れてはならない、そして地球上の核兵器廃絶と恒久平和に向けて取り組むことを宣言するとして「2018ふくしまからの平和アピール」を連合福島 高橋幸恵執行委員が読み上げ、満場一致で採択し「核兵器と平和を求める福島県民集会」は閉会した。さらに集会受付にて実施した、「西日本豪雨災害支援カンパ」では38,832円をご協力頂き感謝を申し上げます。

※集会後に予定されていたデモ行進は、猛暑日となった気候から参加者の体調を考慮し急ぎよ中止とした。



「平和アピール」を
読み上げる連合福島
高橋幸恵執行委員



県内各地から300名が参加した「核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」
左写真は来賓のKAKKIN福島 鈴木三男議長（左）、原水禁福島県民会議 角田政志代表（右）
右写真は、集会に参加され傾聴する参加者の皆さん